



To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2008年11月 No.318
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2007~2008)

センテニアルクラブ会長：『新たな感動を、再び』
 東京セントラルクラブ会長：『活躍しよう Be Active』
 国際会長：『希望の灯となろう』
 アジア会長：『希望の灯となろう』
 西日本区理事：『思いやりを持ってワイズライフを！』
 中西部部長：『喜びを共にし、苦しみを分かち合おう』

クラブ役員 Officers

会長：大村 肇
 副会長：山中 秀男
 書記：石津 雅人
 会計：中村 幸枝
 ネット会長：山村 利子
 Y連絡職員：鍛冶田 千文

だれでも、(タラントを)持っている人は更に与えられて、豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる。

(マタイによる福音書 25章29節)

私の職場

坂本 哲朗

私は、平成15年8月から、大阪府済生会吹田病院の事務部門で働いております。済生会が病院であることは、知っておられる方は多いのですが、どのような組織なのかを知っている人は、あまりいません。

済生会は明治44年5月30日、明治天皇の済生勅語によって創立されました。社会福祉法人恩賜財団済生会として、舘仁親王殿下を総裁にいただき、東京に本部、41都道府県に支部があり、世界最大の社会福祉法人として、病院、介護老人保健施設、老人・児童福祉施設、訪問看護ステーションなど、350余の施設で約3万9,900人の職員が保健・医療・福祉活動に取り組んでおり、入院・外来の患者数は年間延べ1,980万人、入所・通所などの施設利用者は延べ445万人に達しています。

明治天皇の「済生勅語(要約)国民の中に、生活に困窮して医療を求めることもできず、天寿を全うできないものがあるとすれば、それは私が最も心を痛めるところである。これらの人たちに薬を与え、医療を施して生命を救う」の精神をもとに、明日の医療と福祉の充実を常に願い、活動しています。このような考え方は、YMCAの理念に通ずるところがあり、いろいろと、転職を重ねてききた私にとっては、考え深いところがあります。今回私の職場をみなさんに紹介いたしました。

November Club Meeting

『Public Relation Wellness』

11月第1例会

日時：2008年11月19日(水) 18:30~20:30

場所：ホテルグランヴィア大阪

司会：坂本 哲朗君

1. 開会点鐘 大村 肇 会長
2. ワイズソング 一同
3. ゲスト紹介 大村 肇 会長
4. 聖句朗読 谷川 寛 君
5. 今月の強調活動 中村 茂高 君
6. 晩餐 一同
7. 卓話「ロンドンでの生活」
山中 秀男君
山中 ちあきさん
8. お誕生祝い・ニコニコ献金
9. 閉会点鐘 大村 肇 会長

11月第2例会

日時：2008年11月26日(水) 18:30~20:30

場所：大阪YMCA土佐堀会館4階

11月お誕生日：畠中メネット(2日)、
松浦メネット(22日)

例会担当：2班：坂本、藤原、中村茂、三浦、
福永、鍛冶田君

【クラブ統計 Statistics】

2008年10月		種別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金	
在籍会員	18名	メン	14名	6名	10月	220g	10月：34,200円
例会出席	15名	メネット	7名	0名	現金	0円	
うちメーキャップ	0名	ビジター	0名	0名	現切手	累計：692g	累計：105,900円
出席率	83.3%	ゲスト	1名	0名	現金	累計：500円	
		合計	22名	6名			

10月第2例会報告

と き : 10月22日(水) 18:30~20:30

と ころ : 土佐堀YMCA

出席者 : 石津、大村、鍛治田、藤原、山田、三浦君

協議事項

- (1) 12月例会(12月17日(水))
- (2) 「デュオ アゲイン」のミニコンサト 謝礼 3万円。会費 4000円、ホテルとの打合せは大村、藤原両氏が担当。クリスマスプレゼント 1000円程度の品物を交換し合う。
- (3) 「マラリア感染予防パッケージ」の取組みについて。1セット900円 西日本区で100セット目標 センテニアルとしての取組みを検討。
- (4) 土佐堀カ-ニバル 11月3日午前11時から午後3時まで。クラブ担当をきめる
- (5) ハイキングの件
11月23日(日) JR生瀬駅10時集合
- (6) チャリティラン 11月24日(祝) 万博公園
午前9時~午後2時。会場設営・警備担当
- (7) 1月例会以降の予定について「ホテルグランヴィア」に連絡する。
- (8) 次次期中西部部長及び次期会長について協議。
- (9) 表コミ学科との交流会(12/10)の件協議。

その他連絡事項

- (1) センテニアル寄席(2/7(土))のチラシ、チケット作成の件。表コミ生徒招待は15名。
- (2) 大阪クラブ80周年お祝いを用意する(会計)

「タラント」というのは、新訳聖書では、通貨の単位を現わしました。このタラントのたとえば、人の能力をいう場合、与えられているタラントを充分生かして用いなければならないということを教えているそうです。

今日使われている「タレント」という言葉は、この「タラント」から出た言葉です。

私たちは、与えられた能力を惜しまず、フルに生かして奉仕に努めたいものです。

聖句選 コメント 谷川 寛

10月第1例会報告

日時 : 2008年10月15日(水) 18:30~20:30

場所 : ホテルグランヴィア大阪

10月になっても、まだ暑さが抜けやらぬ第一例会は、飛び入りの神田尚人・土佐堀YMCA会館館長を交え、雰囲気も上々、総勢22人で行われました。本日のメインプログラムは、連絡職員でもある鍛治田千文・大阪YMCA国際専門学校高等課程表現・コミュニケーション学科長による、多様な不登校の子どもたちを受け入れている同学科の取り組みのお話。同学科は高校生1学年30人、総勢90人。8、9割は元不登校で、4、5割は発達障害の生徒もいる。4分の1は編入生で、3年生は28人の内、11人は私立から編入しているとのこと。それだけでも学校の運営の大変さがうかがわれます。



学校のコンセプトは、(1)人との関係を築く力をつける。(2)自信の回復(3)ヘルプを出す力=自立。また、横で生徒の言葉に耳を傾けるボランティアのいる学校ということも特長の一つです。当初、リストカットや「死にたい」と口走る生徒に出会い大変驚いたと話す鍛治田さんは、「我慢強く、接することで、子どもたちの成長や変化をもたらす」と力説。同学科のすばらしい取り組みに、私たちも感動を新たにしました。

(中村 茂高)

10月BFニュース

切手提供者

石津、山田、福永、山村君 計 220g

今月の殊勲賞 : 石津君 150g



11月YMCAニュース

YM/YW合同祈禱会

合同祈禱週は世界中のYMCA/YWCAが同じテーマで祈りをもちます。今年のテーマは「自由と平等に生まれて一神に祝福された人権」です。

日時 11月13日(木)18:30~20:15

場所 大阪YMCA

内容 (一部)礼拝・祈りのとき

本田哲郎神父(カトリック・フランシスコ会
「釜が崎ふるさとの家」)

(二部)交流会(軽食あり)

早天祈禱会

日時 11月21日(金)7:30~8:30

*毎月第3金曜日

証し 保田圭子氏(土佐堀Y運営委員)

クリスマスのつどい

年に一度の行事。今年もあたたかく親しみのあるクリスマスのつどいをご一緒にお過ごしください。

テーマ 笑顔~そばにいるよ~

日時 12月6日(土)18:00~20:30

場所 礼拝(大阪教会)・祝会(大阪YMCA)

“ Aloha from Hawaii ”

ハワイ Nuuanu クラブ・ブリテンより抜粋
同クラブの年間行事計画が発表されていました

- 9月：バーベキュー・チキン&寿司セール
 - 10月：ディファレンスデー行事
 - 11月：老人対象の感謝祭ディナー
 - 12月：Metro District クリスマスパティー
 - 1月：YMCA サンデー
 - 2月：ヌアヌ YMCA 支援キャンペーン
 - 3月：10代の若者とのボウリング大会
 - 4月：古本&パンセール
 - 5月：ハワイ地区大会（5/15-17）
- ファンド作りや地域奉仕活動等、毎年着実に実行されています。

“Bauhinia News”

香港 Bauhinia クラブニュースより抜粋

9月例会報告 美容師の話に盛り上がり

同クラブ部の9月例会は17人の会員、ゲストが出席し9月18日に開催されました。ゲストスピーカーに香港美容師協会の Mr. Andy Leung を迎え、“Beauty & Hair” と題する卓話がありましたが、大変好評で、11月例会で Part が開催されるとのことです。美の追求に熱心なところは、さすが女性クラブですね。

Club Activities (November, 2008)

On October 15, the club's October meeting was held at the Hotel Granvia Osaka with a total of 22 Y's men and Y's menettes in attendance. With its emphasis on “B F” this month, Y's man TAKAHIKO YAMADA outlined the meaning and purpose of the program.

The highlight of the meeting was the report made by Ms. CHIFUMI KAJITA, our member and also director of the human communication course of the Osaka YMCA professional school. She spoke about current situation of the course which is open for those children suffering from LD, ADHD and high functioning autism.

We were extremely happy to learn that most of the 17 first graduates from the school were successful in finding out their ways in their life. Some of them went on to the universities, colleges and the ordinary professional school and some got a job with companies.

According to Ms. KAJITA, almost 90% of their students had been away from their elementary and junior high schools before coming to her school. The longest non-attending record from school was “six years”.

She told us how her school had supported these mentally retarded students, showing number of the cases she experienced. The mottoes of the school are “To live together admitting the difference” and “Atmosphere changes people.” The activities and the great results of the school are drawing attention from the education circles here and Ms. KAJITA will report their activities at the Japan LD society.

Yen 34,200 was collected for our club's niko-niko (smiling) fund.

第12回中西部会

～お互いをよく知って～

9月27日(土)14時～17時 大阪YMCA会館2階ホールで、150人ほどが出席して開催された。わがクラブからは15人が出席。石津、大村、坂本、畠中、福永、松浦、三浦、山田、山中メン。坂本、隅田、中村幸、松浦、山中、山村メネット。

本年度の中西部テーマ「喜びを共有し、苦しみを分かち合おう」を受けて、各クラブの活動状況が、各会長によってパワーポイントでわかりやすく紹介。それぞれの個性、特徴が出ていて興味深いものがあった。わがクラブは、大村会長が表コミ学科との交流など、また来年2月7日の「センテニアル寄席」を紹介。どのクラブも苦心しながら、地域奉仕、会員維持・拡大、交流などに、新機軸を求めてやっていることがわかる。

新入会の人たちの紹介があり、山中メンが壇上に（正確には転入）、わがクラブ創設時の会長としてクラブ名の由来など堂々の紹介。引き続き懇親会。最後に、09年6月6日～7日熊本で開催される西日本区大会、10年8月5日～8日ワイズ国際大会（横浜市）にぜひ参加を！との要請があった。総じて、なごやかに終了した。
 （松浦孝次）

中西部・阪和部合同 EMC・広報・交流シンガ
～真剣な討議が行われる～

10月11日(土)午後、大阪南YMCA2階で開催。約100人、わがクラブからは、大村、石津、坂本、三浦、山田、松浦メンが出席した。とくに、例会の持ち方、新入会者のオリエンテーションは大切、との話に共感した。スタンダードに従ってやっていくことの大切さである。またワイズの奉仕活動が社会的に認識されるよう努力すること（広義の広報）は大事だと思う。そうした感想を持ちながら、会場を後にした。
 （松浦孝次）

土佐堀カーニバル

11月3日、今や秋の浪速の風物詩とも言える「土佐堀カーニバル」が土佐堀YMCA会館で開催。天候があまりよくなかったにもかかわらず約1,100人の親子連れが訪れ、海産物や陶芸、民芸品を買い、またゲームなどのアトラクションに興じ、屋台の焼きそばやぜんざいなどに舌鼓を打ちました。

わがクラブも、大村会長をはじめ、石津、松浦、三浦、山田、中村の各メンと、中村、坂本、山中、山村、隅田の各メネットが、受付と抽選、リユース食器の煮沸などの運営を担い、無事、盛会の内に終了しました。

特に午後2時半、抽選会を楽しみにしている入場者で1階のフロアは満員。たくさん用意された景品もまたたくまに無くなってしまいました。中には2等の阿南の海洋センターペア宿泊券が、当センターに長年勤めた経験のある福山武志さんに当たるというハプニングも。さすがに福山さんは辞退したものの、場内は笑いの渦がわき起こりました。

（中村 茂高）





ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

ゲストからのメッセージ

鍛治田さんのチェックに来たのではありません。むしろ私が学びに参りました。久し振りにセンテニアルに寄せて頂いて懐かしいお顔、新しいお顔にお会いして嬉しく感じています。表コミへのご支援に感謝です。表コミ生は特殊な生徒ではありません。現代の課題を背負った若者たちです。
(神田 尚人)

会員からのメッセージ

表コミの講師として3年目になりますがスタッフの方々のご苦勞は大抵ではありません。生徒の笑顔の影にスタッフの涙ありです!!
(石津 雅人)

鍛治田さんから表現コミュニケーションの取り組みを聞きこれからもクラブメンバーが交流を持つ事の大切さを感じました。
(大村 肇)

表コミの話聞いていただき有難うございました。
(鍛治田 千文)

夏に関らせて頂いた表現コミュニケーション学科についての理解を深める事ができてよかったです。夏のお茶会では見えていなかった事を色々あるので驚きました。
(坂本 千春)

NHKのフリースクールの番組も見ていましたが鍛治田さんの話を聞きこの学校の重要性を強く痛感しました。
(坂本 哲朗)

施設の運営が大変で忙しくしています。能勢にある6つの施設とも連絡を取りあっているなことをしています。Ex. エコハイク、音楽会、今冬12月14日浄瑠璃シアターで吉弥の独演会があります。よかったらお越し下さい。午後1時会場 2000円です。
(新保 正秋)

30年余りずっと大和生命に掛けて来ました。突然、その会社の破綻をニュースで知りついに我家までやって来たかと実感する秋です。
(隅田 恵子)

今回の宅話も大変勉強になりました。有難うございました。
(田中 穰二)

表コミ学科の内容を詳しく知る機会を提供していただき鍛治田さんに感謝します。
(谷川 寛)

表コミを丁寧に、丁寧に育てている鍛治田さんのご苦勞に頭が下がります。
(中村 幸枝)

本日は「表現コミュニケーション学科」のすばらしい活動を鍛治田さんから伺うことが出来ました。子どもたちにとって安心のある受容な場という場所が大切です。
(中村 茂高)

あらためて鍛治田学科長の御苦勞を思い感謝と共に意義があるご活躍の御成功をお祈りします。石津さんのお骨折りでやっとワイズソングと日々の糧が響きました。感謝!
(福永 嘉彦)

鍛治田さんのお話を聞きながら難しい大変なお仕事だと改めて思いました。一人一人の子供さんが苦しさを乗り越えて社会へと元気に歩み出して欲しいと祈ります。
(福永 滋子)

最近体調が必ずしも万全でなく快々としめない日々を送っていましたが。楽しい例会に出席でき心がなごみました。黒田さんからのご寄付も紹介され皆さんで感謝しました。鍛治田さんのお話ご苦勞のほどがしのばれますが順調に発展されており本当に心嬉しく存じております。今後、ますますのご発展を祈念申し上げます。
(藤原 正巳)

表コミ生の生活状態がよくわかりました。YMCAの学校の取り組みがよく生徒が変わっていく様子びっくりしました。
(松浦 和子)

心に傷を持つ若い人たちが表コミ学科での交流・支援によって心を開いていくのはすばらしいことですね。関わっておられる鍛治田さんを初めとするメンバーのご尽力に敬意を表します。
(松浦 孝次)

表コミ学科のお仕事は地味で目立たない所でご苦勞の多い役割ですネ。その中での地味なご努力に敬意を表します。これからもセンテニアルで応援します。
(山田 孝彦)

初めての聖句朗読、赤毛のアンに教えられ、助けられて選句
(山中 秀男)

黒田夫妻のお元気な様子を拝聴し嬉しく思います。又、お目にかかれるのを楽しみにしております。
(山中 ちあき)

表コミの学生たちの様子がわかりよかったと思います。今月は誕生日で神に感謝します。
(山村 利子)



後記

偶然と、結実

にわかに肌寒くなったように思います。先月の編集後記で、フォークソング歌手の本田路津子の父親のことを取り上げました。死の2週間前、ベッドから伸びた手が、大好きな賛美歌298番を指し示したという話。いったい賛美歌298番とはどんな曲だったのだろうかと思い、インターネットで探してみたら、スピーカーから流れる耳慣れた曲に、思わず「エッ」と驚きました。なんと、それは私たちがよく歌っている「ワイズソング」だったからです。ワイズソングが賛美歌ということさえ、私は不覚にも知りませんでした。皆さんはご存知だったでしょうか?

さて、10月末に一通の手紙が自宅に届きました。27年間に及ぶ知的障がい者の音楽グループ「楽団あぶあぶあ&ミュージカルチーム LOVE」の活動を描いたドキュメンタリー映画が完成し試写会をするという案内でした。

この運営の中心的役割を担っていた女性は、学生時代のキャンプ仲間で、現在、闘病生活を余儀なくされています。その指導方法はとてもユニークでした。一方的に教えるというやり方ではなく、子どもたちと一緒に飛んだり跳ねたりしながら、心を通わせコンサートやミュージカルを作り上げるという独特なやり方でした。その汗と涙の結晶が、「あぶあぶあの奇跡」と題する映画となったということは、とてもすばらしいことであり、闘病中の彼女を励ますことにもなります。この映画が多くの人たちの心にひびき感動を与えることを願ってやみません。

中村 茂高